

## 政務活動調査報告書

調査日	平成29年8月8日（火）
視察場所	鹿児島 県曾於市
調査項目	「高齢者買い物無料送迎サービス」について
視察者名	畔柳敏彦 井手瀬絹子 畑尻宣長 野島さつき
市の概要	面積：390.11 km <sup>2</sup> 人口：38,825人 人口密度：99.52人/km <sup>2</sup> 世帯：18,573世帯 経常収支比率：89.4% 実質公債費比率：7.4%

運転免許証の自主返納が制度化されたのは、平成10年であります。高齢化社会に伴い高齢運転者数が増えることで、高齢ドライバーによる交通事故が年々増加し、本人や家族などからの相談が多数寄せられるようになり、高齢運転者への対策として制度化に至ったということです。高齢ドライバーの免許証自主返納は年々増加しており、平成27年の運転免許証自主返納総数では、285,514件になり、平成18年から比べると約10年間で10倍以上に増えています。自主返納したことにより、病院や買い物などに行けなくなる、家族の負担が増す、外出しなくなる等デメリットも多くあります。

今回視察に訪れた曾於市では、県内初の取り組みとして、曾於警察署と市社会福祉協議会、市内の社会福祉法人がタイアップした「買い物支援モデル活動」を実施。高齢者の買い物の機会を確保し、運転免許証を自主返納しやすい環境づくりに取り組んでいました。



### <曾於市の概要>

曾於市（そおし）は、鹿児島県の東部、大隅半島の北部にあり宮崎県との県境に位置する。2005年7月1日、曾於郡の末吉町・財部町・大隅町が合併し成立した。北部は大淀川流域に開け、都城盆地の一角をなし、南部は菱田川流域に広がり全体的には起伏の多い台地となっている。基幹産業は農業で、全国有数の畜産の産地が形成され食料供給基地となっている。

る。旧末吉町・財部町を中心に隣接する宮崎県都城市と日常生活や文化面でのつながりが深く、都城都市圏の範囲内となる。

## ＜買い物支援モデル活動を実施するに至った経緯＞

### 1、地域の課題

- 平成28年6月 曾於警察署交通課より高齢者事故の多発と高齢者の運転免許証返納が進まない現状について話がある。
- 社会福祉協議会においても介護サービス利用者のご家族より、運転免許証返納についての相談が増えている現状があった。
- 校区社会福祉協議会の中では、買い物困難という地域課題があげられている。
- 当事者の立場からは、車の運転ができなくなると、病院受診や買い物ができなくなり日常生活に困るとの意見がある。

### 2、社会福祉法人としての取組

平成29年4月から改正社会福祉法が施行され、地域における社会福祉法人としての役割を再認識し、本来の役割を明確化するため、全ての法人に対して「地域における公益的な取組」の実施に関する責務規定が創設されることになった。

### 3、社会福祉協議会の出番

- ◆平成28年9月23日 曾於市社会福祉協議会から「社会福祉法人における公益的な取組」について考える「社会福祉法人連絡会」の開催を市内の社会福祉法人に呼びかける。
- ◆平成29年1月18日 「第2回社会福祉法人連絡会」の中で曾於市内、19法人に地域課題解決に向けて「買い物支援モデル活動」を提案。



- ◆社会福祉協議会から地域で開催されている「ふれあい・いきいきサロン」のリーダーに相談、買い物困難な方に周知していただく。

#### 4、警察署との連携

- ★曾於警察署交通課より社会福祉法人に個別に協力の呼びかけをしていただく。
- ★曾於市内の社会福祉法人と連携、曾於警察署との協働により、地域公益事業の一環として実施。
- ★社会福祉法人白鳥会の賛同を得る。
- ★末吉地域を白鳥会、財部地域を社会福祉協議会が担当し、まず2つの地域でモデル的に活動を実施。
- ★買い物支援活動の見守り、実施状況の確認を警察署が実施。



#### <参加者の声>

- みんなで買い物に行くと話もできて楽しい。
- 飲み物など重い物も買うことができて良かった。
- 住んでいる地域は乗り合いタクシーは通るが便数が少なく、移動販売も来ないので助かった。
- 免許を返納してから大きな物を買うことができなかったが、今回買えて良かった。
- 80歳を超えて車の運転はしているが、次の免許更新をどうしようか迷っている。このような支援がもっとあれば免許返納も考えたい。

#### <買い物支援による効果>

- ◆ 出かける機会が増える。みんなで出かけることが楽しみや生きがいきなりとなり、介護予防につながる。
- ◆ 実際に自分の目で見て欲しい物を買うことができ、生活の質の向上につながる。
- ◆ 車を運転しなくても出かけられるサービスが増えていけば、高齢者の免許証返納につながる。
- ◆ 地域の方の中にも「自分たちでできることはしなければ」という思いが生まれ、地域の協力者が増えてきた。

#### <今後の課題>

- 市内には買い物に行けずに困っている方がまだまだいる。
- 単独法人では、人も車も限られており複数の地区に対応することが困難。(活動は一部の地域に限られている)
- サービスの周知が不十分。

- 多くの方に参加してもらえるように、車椅子対応できるような車両の確保が必要。

### <法人が関わるメリット>

- ◇ 職員を地域の方に知ってもらい、顔の見える関係づくりができた。
- ◇ 職員が地域に出向く（アウトリーチ）機会が増え、住民の声を聴くことができ、新たな地域課題の発掘につながる。
- ◇ 地域にある施設として、事業の内容等を知ってもらうきっかけになり、地域貢献活動にもなる。
- ◇ この活動を通じて、他の社会福祉法人と地域の課題を共有することができ、曾於警察署と社会福祉法人という異業種との協働ができた。

### <所 感>・・・畔柳敏彦

曾於市の面積は390 km<sup>2</sup>で岡崎市とほぼ同じ、人口は3万8千人で本市の10分の1ですが、本市の高齢化率は約18%であるが曾於市は35%という超高齢社会となっています。同署管内では昨年、139件の人身事故が発生。そのうち約4割が65歳以上の高齢者の運転による事故であったそうです。免許の所有率は県内3番目、車が運転できなければ自由な行動ができないという地域性の証でもあります。過疎地に住む多くの高齢者は運転を続けることに不安はあっても、免許返納後の不便が予想されると免許返納に対しての心の踏ん切りがつけにくいのは誰もが思うところであります。事故を未然に防ぐことは大切でありますが、免許を返納してもあまり不便を感じない環境づくりをして、高齢者自らが納得して自主返納ができるようにしていくべきである。曾於署はこの自主返納が進まないの社会福祉協議会に相談を持ち掛けてきたという。

一方、社会福祉協議会へ寄せられる介護サービス利用者のご家族より、運転免許証返納について相談が増えている現状や買い物困難という地域課題などがあったという。また、平成29年4月から改正社会福祉法が施行されるに伴い前年度に「社会福祉法人における公益的取り組み」について考える「社会福祉法人連絡会」の開催を呼びかけ19法人に地域課題解決に向けて「買い物支援モデル活動」を提案した結果、曾於市内の社会福祉法人白鳥会と社会福祉協議会が曾於署と協働で地域公益事業の一環で実施することになった。白鳥会は通所者を送迎するバスが日中は動かないため、バスと運転手を提供。末吉地域を担当、財部地域は社会福祉協議会が担当しモデル的に実施された。鹿児島県初の試みであります。現在は月に1回、例えば末吉地域ではこのバスに12名の高齢者が乗車、サロンのボランティア2名と白鳥会の運転手の構成で運行されている。

末吉地域は80世帯の約6割が高齢者であるが曾於市で現在高齢者のサロンは110ヶ所が開設されている。末吉地域はサロンの一つであります。そのサロンを運営している顔見知りの人となる代表者たちが付き添いをしているということです。買い物へ行く車中は隣近所の話や地域の話などがどんどん出てきて話の花が咲き高齢者の笑顔がはじけているそうです。買い物に参加された方の声があります。「みんなで買い物に行くと話できて

うれしい」「飲み物などの重いものも買うことができ助かった」「住んでいる地域は乗り合いタクシーが通るが便数が少なく、移動販売も来ないので助かった」「免許を返納してから大きな物を買うことができなかつたが、今回、ベニヤ板を買うことができよかつた」「80歳を迎えて車の運転をしているが、次の免許更新をどうしようか迷っている。このような支援がもっとあれば、免許返納も考えたい」など寄せられている。

また、この買い物支援による効果として①出かける機会が増える。みんなで出かけることが楽しみや生きがいづくりとなり、介護予防につながる。②実際に自分の目で見て欲しいものを買うことができる QOL の向上につながる。③車を運転しなくても出かけられるサービスが増えていけば、高齢者の免許返納につながる。④地域の方の中にも、「自分たちでできることはしなければ」という思いが生まれ、地域の協力者が増えてきたという効果があったようです。

現在この様子を見て新たに3つの社会福祉法人が協力していきたいと声が上がっているようであります。

岡崎市においても藤川地域では同じことをされていますが、曾於市のすごいところは、社協が中心となり、能動的にコーディネーター役になり、社会福祉法人と地域を結び付けて拡大しているところは私の認識が間違っていなければ、社協の鏡であると感じた次第であります。何にもまして110のサロンの代表たちは常に住民の課題解決のために奔走して家族状況も把握されており、人と人のつながりを作っているという背景が小さい街だからと言って冷めた目では見てはいけないこれからの、また今必要な福祉のあり方を学ばせていただきました。

### <所感>・・・井手瀬絹子

本年2月28日、高齢者の買い物の機会を確保し、運転免許証を自主返納しやすい環境をつくろうと、曾於警察署の呼びかけに市社会福祉協議会と社会福祉法人が賛同し、市街地のスーパーに無料送迎する「買い物支援サービス」を開始されており勉強させて頂きました。実施に至る経緯として、平成29年4月から、改正社会福祉法が施行され、地域における社会福祉法人としての役割を再認識し、本来の役割を明確化するため、全ての法人に対して「地域における公益的な取組」の実施に関する責務規定が創設されることになり、曾於市社会福祉協議会は、これまで介護サービス利用者のご家族より、運転免許証返納についての相談が増えている現状から、買い物困難という地域課題があげられていました。この、「公益的な取組」について考える「社会福祉法人連絡会」を開催し市内19法人に地域課題解決に向けて「買い物支援モデル活動」を提案。市内111か所で自主的に開催されている「ふれあい・いきいきサロン」のリーダーに相談し買い物困難な方に周知していただいております。一方で、曾於警察署管内では、昨年139人の人身事故が発生しそのうちの約4割が65歳以上の高齢者の運転による事故であり、曾於市内の運転免許証保持者の割合は県内で3番目に高いという現状を受け、警察署として免許証を返納しやすい環境をつくろうと市内の社会福祉法人に個別に協力の呼びかけがあったことから、社会福祉法人と曾於警察署との協働により、地域公益事業の一環として実施されるに至っています。

賛同された社会福祉法人の白鳥会は児童養護施設ですが、昼間はバスが空いているからと、運転手、ガソリン、保険も自前で協力して下さっています。市社協は公用車を提供し、活動全般のコーディネーター役を果たし、警察署は活動の見守り、実施状況の確認をされています。地域の方の中にも「自分達でできることはしなければ」という思いが生まれ、サロンのなかの方が2～3名ボランティアで参加し協力してくれています。

買い物の効果として、みんなで一緒に出かける楽しみが生きがいつくりとなり、介護予防につながりますし、自分の目で見て欲しいものを買うことができるという事は、QOL（生活の質）の向上につながります。免許証の自主返納に大切なことは、制限を強化するのではなく、返納しても安心して生活ができる環境づくりをすることで、本人が納得をされるのではないのでしょうか。

今回勉強させていただいて感じたことは、今日の福祉ニーズは多種多様化し、公的サービスだけ、また福祉分野のサービスだけでは解決できない事例が増えてきています。その意味から、曾於市の警察署と社会福祉法人という異業種との協働は本市において大変参考になる取り組みと実感しました。また、社会福祉協議会の本来の役割である、「地域における公益的な取組」の見本を見せていただいたようでした。本市にも各小学校区に社会福祉委員会があり、社会福祉法人も多数存在します。岡崎市社会福祉協議会が地域課題解決のコーディネーター役として地域と社会福祉法人との連携ができれば、必要としている人に必要なサービスを届ける手助けができると思います。社会福祉協議会が本領発揮できるよう働きかけてまいりたいと思います。

### <所 感>・・・畑尻宣長

曾於市の高齢者買い物無料送迎サービスについて、学ばせて頂きました。人口は3万6千人と本市の1/10くらいで、面積がほぼ同じという状況の中で、過疎化も進んでいます。私のイメージとしては、額田地域をイメージしていました。広大な土地に、集落が点在する環境の中で、高齢化が進み、自動車運転免許証の返納により生活の足がなくなることに對し、曾於市社会福祉協議会が中心となり、買い物無料送迎サービスを行うようになりました。

また、高齢者の交通事故が多発しているという状況も重なり、そういった不安を取り除くための手法として始められました。

曾於市内の社会福祉法人と連携し、曾於警察署との協働により地域の公益事業の一環として始められました。まずは、社会福祉法人白鳥会の賛同を得て2法人が地域に出向き、職員と車を提供して下さっています。その車を利用し買い物支援活動を見守り、実施状況の確認を曾於警察署が実施されました。初めての実施に当たっては、曾於警察署のパトカーが皆さんを乗せたバスを先導するという参加された人の心に残るエピソードも伺いました。

参加された人の声は、「80歳を超えて車の運転をしているが、次の免許更新を迷っている。このような支援がもっとあれば免許返納も考えたい」「住んでる地域は乗り合いタクシーは通るが便数が少なく、移動販売も来ないので助かった」ということで効果は期待できるものであると思いました。また、出かける機会が増えることでの介護予防にもつながることや、自分の目で見て欲しいものを買うことが出来、生活の向上にもつながっていると感じました。

さらに、地域の中で「自分たちでできることはしなければ」という地域の協力者も増えてきているということを知り、さらなる効果を生み出していると感じました。

この地域の特徴ともいえる人柄の良さが、担当してくださった方全員から伝わってきました。それは、私たちが単なるお客さんを迎えるというだけではなく、日頃からの地域の人たちの触れ合いの延長線上のような気がしました。その雰囲気はこれまで温かい関係を築いてこられた要因だと強く感じました。昔ながらの隣近所の助け合いがこの町全体を包んでいるようなイメージを受けました。そこには、損得勘定というものではなく、お役に立てるのであれば、というボランティア精神、社会貢献という言葉だけでは足りないような前向きな貢献が感じられました。ですから、私自身が、それは本当かと少し疑ってしまうようなこともあります。心で、出来ることは何でもやりますよ。という話があり、それが今回の買い物無料送迎サービスに繋がっているのだと思いました。

とても優れた環境の中で成立している事業です。本市に置き換えるとまずは、どこまで社会福祉協議会が変われるか。というところに尽きると感じました。これから、本市でも買い物弱者が出てくる地域はたくさんあります。少しでも進められるよう今からでも働きかけていきたいと思っています。

#### <所 感>・・・野島さつき

高齢運転者の認知証対策を強化する改正道路交通法が平成 29 年 3 月 12 日に施行されました。75 歳以上の免許更新や違反時の検査で「認知症の恐れあり」と判定されると、医師の受診が義務づけられます。認知症と診断されれば、免許停止・取り消しとなります。運転免許証返納のメリットとしては、交通事故を防げる、歩くため健康になる、家族が安心する等があげられます。デメリットとしては、病院などにいけなくなる、家族の負担が増す、外出しなくなる等があります。

返納後も今までと変わらぬ生活水準を保つために、どのような環境を整えば運転免許証の自主返納がしやすくなるのでしょうか。たとえば、スーパーや病院までの送迎バスを増やす、バスの運行本数や停留所を増やす、バス路線を増やす、タクシー料金の割引等「移動手段の確保」が不可欠であります。しかし、公共交通は簡単に増やすことはできません。このような社会状況の中、曾於市の取組は、高齢者の外出促進のために特に重要とされる「移動手段」「外出場所」「人的ネットワーク」の 3 点を取り入れた理想的なものと思われれます。

曾於市社会福祉協議会では、小学校区を対象とした校区社会福祉協議会を立ち上げ、見守り活動やサロン活動等一人ひとりに手が届く小地域の福祉体制づくりに力を入れています。人口減少が著しく、一人暮らしの高齢者も増え、「地域でどう支えるか」を常に考えているとのことです。中山間地区も多く、不便が地域の繋がりを強めているともいわれます。このような地域だからこそ、社会福祉法人の協力も得られ、「買い物支援サービス」が実施できたのでありましょう。さらに新たに 3 つの社会福祉法人から協力の声があがっているということです。

高齢者が積極的に外出することによって、高齢者本人には身体面や精神面で良い影響をもたらし、その結果、社会的にも介護費・医療費などのコスト削減、地域活性化や消費拡大な

どの効果を与えることが期待されます。介護予防や閉じこもり予防といった観点からも、高齢者の外出支援は今後ますます注目されると思われます。今日の福祉ニーズは多種多様化しており、公的サービスや福祉分野のサービスだけでは解決できない事例も増えています。社会福祉法人には、福祉サービスの供給確保という役割だけではなく、関係者との連携で地域の課題を発見し、きめ細かく柔軟に対応することが求められています。単独法人では解決が難しい課題も複数の法人が協働することで解決できることも多いと思われます。本市の社会福祉協議会にも各法人と地域をつなぐコーディネーターとしての役割を発揮していただき、支援が必要な人にしっかり支援していく体制を構築して頂きたいと願うものであります。

以上